保護司の輪 つなぐ

綴喜地区の会、広報誌創刊

八幡市と京田辺市、井手町、宇治田原町の保護司でつくる綴喜地区保護司会が広報誌「更生保護つづき」を創刊した。新型コロナウイルス禍の影響で研修の会合が十分に行えない中、会員の交流や能力向上に役立てる狙い。同会のホームページでも公開しており「なり手不足が続く保護司の活動を知ってもらうきっかけにもしたい」としている。

広報誌「更生保護つづき」の創刊号を手にする道本会長(左)と田和副会長＝京田辺市興戸・綴喜地区保護司会更生保護サポートセンター

情報交換や交流の場に

HPで公開「広く知って」

保護司は法務大臣が委嘱するボランティア。罪や非行を犯した人に定期的な面接を行って立ち直りを支援し、犯罪予防の啓発活動を行っている。

同会では例年、グループ討論や保護観察官による講習などの定例研修を年3回実施してきたが、昨年はコロナ禍で開けず、今年も市町ごとの開催に規模を縮小した。道本俊規会長(74)によると「保護司のレベルアップには経験を語り合う研修が大切」といい、情報交換や交流の機会を補うため発刊を決めた。

副会長で広報担当の田和利夫さん(65)が編集を担当。A4判6ページで、創刊号では一言と顔写真で新任保護司を紹介するコーナーや、仲間集めの苦労話、退任者の経験談などを載せた。田和さんは「経験やノウハウなどのかたい話題だけでなく、地域の保護司紹介といった記事も掲載したい」と話す。

道本会長は「保護司はみな、『人は変わることができる』という信念を持っている。広報誌を通じて保護司を知り、扉を開けてほしい」とする。役場や警察署など関係機関に配布した。ホームページhttps://tsudukichikuhogoshikai.jimdosite.com/で掲載している。

(近藤大介)

道路・遊具の損傷 LINEで通報

宇治市、機能追加

宇治市は8月下旬から、市公式LINEに、市管理の道路や公園遊具などの損傷情報を市へ通報できる機能を追加した。現場の写真添付で具体的な状況が分かり、位置情報の送信で場所特定がしやすい利点がある。従来の電話よりも正確な情報提供を期待している。

通報内容は、道路の路面やガードレール、カーブミラー、側溝、街灯、公園の遊具などの損傷状況。鳥獣の死骸を発見した場合も対象にしている。市公式LINEを友だち登録すれば、トップページに「街のれんるが、市職員が受信を確認するのは平日の開庁日。対応結果は連絡者に報告しないが、ホームページで定期的に公表する。通報内容が国や府の施設に関する場合は、管理者に情報提供することもあるという。

京都市は同様の通報をスマートフォンなどのアプリで受け付けているが、宇治市は「LINEは幅広い世代で普及しており、市の公式LINEも約1万人の友だち登録がある。スケールメリットを生かしたい」としている。

(相見昌範)

近畿

城陽市

城陽市は、新京野菜の一種「京の風速道路(2020年全線開通)の側で発生する開発000万立方㍍の業について、市陵地の山砂利採らでつくる近畿同組合(同市寺契約候補者に決議会建設委員会した。

「継続」

城陽

12日投開票の長選で3選を目